

授業科目名	循環形態機能学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 健康・疾病・障害に関する観察力、判断力をもち看護することができるよう、生命維持、生命の連続性をつかさどる器官として、人体を系統立てて理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 総論	講義	
2	2. 呼吸器系の構造と機能	講義	
3	1) 概説	講義	
4	2) 気道と肺の構造と機能	講義	
5	3) 呼吸運動とガス交換	講義	
6	3. 循環器系の構造と機能	講義	
7	1) 概説	講義	
8	2) 心臓、全身の主な血管とリンパ管	講義	
9	3) 心臓の刺激伝達系と心電図	講義	
10	4) 血圧の調節	講義	
11	4. 泌尿器系の構造と機能	講義	
12	1) 概説	講義	
13	2) 腎機能調節	講義	
14	3) 泌尿器と排尿反射	講義	
15	5. 生殖器系の構造と機能	講義	
	1) 性と生殖器	講義	
	2) 生殖細胞と妊娠	講義	
	3) 分娩と子の成長	講義	
	まとめ、修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 【参】 A. シェフラー他 からだの構造と機能 西村書店		
履修上の 注意	正常・異常を区別できることが重要である。 正常な機能を理解する意識を持ち、人体のしくみをイメージ出来るように学習する。		
備考			

授業科目名	運動形態機能学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 骨との構造と機能をはじめ全身の骨格の名称と特徴を理解できる。 2. 骨格筋の構造と機能をはじめ、全身の骨格筋の名称と生理機能を理解できる。 3. 神経系の構造と機能をはじめ、体の動きを理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 人体の骨格、骨の形態と構造	講義	
2	2. 骨の組織と組成、骨の発生と成長、骨の生理的な機能	講義	
3	3. 関節の構造と機能	講義	
4	4. 骨格筋の神経支配	講義	
5	5. 体幹の骨格と筋	講義	
6	6. 上肢・下肢の骨格と筋	講義	
7	7. 頭頸部の骨格と筋	講義	
8	8. 皮膚の構造と機能、痛み	講義	
9	9. 眼の構造と視覚、耳の構造	講義	
10	10. 聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚	講義	
	11. 感覚機能と上行伝道路	講義	
11	12. 神経系の構造と機能	講義	
12	13. 脊髄と脳	講義	
13	14. 脳の高次機能	講義	
14	15. 運動機能と下行伝導路	講義	
15	修了試験、まとめ	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 【参】 A. シェフラー他 からだの構造と機能 西村書店		
履修上の 注意	専門用語が多数でくるので、自宅学習での復習が重要になる。		
備考	骨格、筋肉の名称、機能を覚え、自分の身体を使って説明できるように学習する		

授業科目名	消化形態機能学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 消化器系を構成する諸臓器の形態(微細構造を含む)と関連を知り、食物の消化・吸収におけるそれらの一連の働きを理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 消化器系の構成①: 細胞・組織・臓器・器官(系統)	講義・演習	
2	②: 細胞内小器官	講義・演習	
3	2. 消化器壁の一般構造: 上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織		
4	3. 口腔の作用①: 舌・歯の構造 消化液分泌機序と消化機能	講義・演習	
5	②: 咽頭・食道の構造 咀嚼・嚥下・蠕動運動		
6	4. 胃の作用: 胃の機能(運動機能・消化機能)と形態および構造 胃液の分泌部位と分泌機序	講義・演習 講義・演習	
7	5. 小腸: 小腸の機能(運動機能・消化機能)形態および構造 ※主に十二指腸	講義・演習	
8	6. 膵臓・胆嚢の作用: 形態および構造 分泌液と機能と機序		
9	中間試験	筆記試験	
10	7. 消化器系に分布する脈管①: 動・静脈のつながり 三大栄養素の進路	講義・演習	
11	8. 肝臓: 機能の形態と構造 消化器系に分布する脈管 肝臓の形態と構造、門脈から肝静脈にいたる経路	講義・演習	
12	9. 大腸①: 機能(運動機能・消化機能)小腸の形態および構造を 比較検討	講義・演習	
13	②: 排便反射 腸管膜との関連 腹腔と腹膜 腹腔(後腹壁を含む)と腹膜の関連	講義・演習	
14	10. 消化器系の構成(臓器と微細構造)と三大栄養素の消化・吸収 ・進路	講義・演習	
15	11. 人体における消化器官の意義と役割を考察	講義・演習	
16	修了試験	筆記試験	
評価方法	グループワークや課題、筆記試験(中間・修了)の結果にて総合評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 A. シェフラー からだの構造と機能 西村書店 【参】 F. H. マティーン他 カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店		
履修上の 注意			
備考	正常・異常を区別できることが重要である。 正常な機能を理解する意識を持ち、人体のしくみをイメージ出来るよう学習する。 グループ学習形式で講義をすすめる。		

平成31年度 授業概要

授業科目名	免疫代謝形態機能学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 血液の組成と各成分の機能を理解できる。 2. 体液の恒常性維持のメカニズムについて理解できる。 3. 内分泌の基本概念および各ホルモンの作用と分泌調節について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1.概論 — 生命現象とホメオスタシス	講義	
2	2.体液と電解質	講義	
3~6	3.血液・間質液・リンパ	講義	
7・8	4.生体の防御機構、体温とその調節	講義	
9	5.内分泌総論	講義	
10~14	6.内分泌各論 〔 視床下部-下垂体系、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、 性腺、その他の臓器 〕	講義	
15	修了試験、まとめ	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院 【参】Abrahams, P. H. 他 人体解剖カラーアトラス 南江堂 A. シェフラー他 からだの構造と機能 西村書店		
履修上の 注意			
備考	正常と病態を理解することが重要である。 正常な機能を理解する意識を持ち、人体のしくみを イメージ出来るよう学習する。 必要に応じてプリント、ビデオ等を用いる。		

平成31年度 授業概要

授業科目名	栄養・生化学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外・院内講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 生命活動を物質の流れとして、栄養学的・生物学的に理解できる基礎知識を習得できる。		
回数	授業内容	教育方法および担当	
1	1. 生化学の概論	講義・小テスト	
2・3	2. 糖質・糖質代謝	講義・小テスト	
4・5	3. 脂質・脂質代謝	講義・小テスト	
6・7	4. タンパク質・タンパク質代謝	講義・小テスト	
8	5. ポリフェリン代謝・水・無機質	講義・小テスト	
9	6. 酵素・ビタミン	講義・小テスト	
10	7. ホルモン	講義・小テスト	
11	8. 核酸・核酸代謝	講義・小テスト	
12	9. 遺伝情報	講義・小テスト	
13	10. 栄養素の種類とはたらき・消化吸収	講義・小テスト	
14	11. 栄養素の体内代謝	講義・小テスト	
15	12. 栄養状態の評価・判定 栄養ケアマネジメント	講義	
16	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験および各講義時の小テストにて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 生化学 医学書院 系統看護学講座 栄養学 医学書院		
履修上の 注意	本科目は、生命科学の根幹をなす科目の一つであることを、意識し学習する。		
備考			

授業科目名	病理学総論	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 疾病の病因と病態を理解できる。 2. 疾病の発生機序を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 病理学とは 病因	講義	
2・3	2. 循環障害	講義	
4	3. 腫瘍	講義	
5	4. 炎症と免疫	講義	
6	5. 感染症	講義	
7	6. 代謝異常	講義	
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】岡田英吉 図解ワンポイント病理学 疾病のなりたちと回復の促進 サイオ出版		
履修上の 注意	専門用語が多数でてくるので、自宅学習での復習が重要になる。		
備考	病理学は解剖学・生理学・生化学をはじめとする人体の正常状態を扱う基礎医学と具体的な疾患の診断・治療に携わる臨床医学を橋渡す位置にある学問であり、疾病によっておこる様々な変化を通じ、病気の発症機序(疾病の原因、経過)と転機について探究する学問である。肉眼的・顕微鏡的形態変化の基盤に、疾病を理解し、その発症メカニズムを学習する。		

授業科目名	薬理学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院内講師・薬剤師)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 概論(基礎)	講義	
2~4	2. 概論	講義	
5	3. 感染症治療薬	講義	
6	4. 神経系作動薬①	講義	
7	5. 神経系作動薬②	講義	
8	6. 心血管系作動薬①	講義	
9	7. 心血管系作動薬②	講義	
10	8. 抗がん剤	講義	
11	9. 免疫とアレルギー	講義	
12	10. 消化管、呼吸器系、感覚器官作動薬	講義	
13	11. 内分泌系作動薬	講義	
14	12. 消毒薬、緊急時に使用する薬物	講義	
15	まとめ、修了試験	講義・筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 薬理学 医学書院		
履修上の 注意	耳慣れない言葉や専門用語に戸惑うかもしれませんが、ひとつひとつ薬物の作用を考えながら学習をすすめていきましょう。		
備考	薬理学および薬剤学を理解する。 剤形、また薬剤の特徴によつての注意点についても理解する。		

授業科目名	微生物学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 生体の感染防御機構について理解できる。 2. 個々の病原微生物について、種類、感染経路、感染症の症状、診断、治療、予防について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 微生物と微生物学 微生物学の対象と目的、微生物の種類と特徴	講義	
2	2. 細菌の性質、真菌の性質、原虫の性質	講義	
3	3. ウイルスの性質	講義	
4	4. 感染と感染症 感染とは、感染の成立から発症・治癒まで	講義	
5	5. 感染に対する生体防御機構 自己免疫・獲得免疫・粘膜免疫	講義	
6	6. 感染源・感染経路からみた感染症 経口感染・経気道感染・接触感染・経皮感染・母児感染	講義	
7	7. 感染予防 滅菌と消毒、予防接種とワクチン	講義	
8	8. 感染症の検査と診断	講義	
9	9. 感染症の現状と対策	講義	
10	新興・再興感染症、院内感染・市中感染、日和見感染症	講義	
11	10. 病原細菌と細菌感染症	講義	
12	11. 病原真菌と真菌感染症	講義	
13・14	12. おもなウイルスとウイルス感染症	講義	
15	まとめ、修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 微生物学 医学書院		
履修上の 注意	専門用語が多数でてくるので、自宅学習での復習が重要になる。		
備考			

授業科目名	循環病態学Ⅰ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 循環器・呼吸器疾患の病態と、それに関わる検査・治療法について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	<循環器系> 1. 呼吸と循環、心不全、呼吸不全、不整脈	講義	
2	2. 心筋症、心筋炎	講義	
3	3. 心臓弁膜症	講義	
4	4. 先天性心疾患	講義	
5	5. 高血圧性心疾患	講義	
6	6. 末梢血管病(大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症)	講義	
7	7. 虚血性心疾患	講義	
8	<呼吸器系> 8. 炎症性気道疾患(COPD)	講義	
9	9. 呼吸器感染症(インフルエンザ、肺炎、結核)	講義	
10	10. アレルギー疾患(気管支喘息)	講義	
11	11. 睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群不整脈	講義	
12	12. 肺循環の異常(肺塞栓症、肺高血圧症)	講義	
13	13. 間質性肺疾患(間質性肺炎、薬剤性肺障害)	講義	
14	14. 腫瘍性疾患(肺癌、中皮腫)	講義	
15	まとめ、修了試験	講義・筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 循環器疾患 医学書院 系統看護学講座 呼吸器疾患 医学書院		
履修上の 注意	形態機能(解剖生理)を復習しながら、正常に機能を保てない場合人体はどうなるのかを意識しながら、学習する。		
備考			

授業科目名	循環病態学Ⅱ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	2年次 1学期
科目目標	1. 腎・泌尿器疾患の病態と、それに関わる検査・治療法について理解できる。 2. 生殖器疾患の病態と、それに関わる検査・治療法について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 腎・泌尿器の構造と機能 尿の異常など	講義	
2	2. 症状とその病態生理、検査	講義	
3	3. 腎不全と治療	講義	
4	4. 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群	講義	
5	5. その他の腎障害(糖尿病性腎症、SLEによる腎症)	講義	
6	6. 尿路・性器の感染症 尿路結石	講義	
7	7. その他の腎・尿路疾患	講義	
8	8. 尿路・性器の腫瘍	講義	
9	9. 男性不妊症など	講義	
10	10. 思春期における性的成熟の障害	講義	
11	11. 加齢による生殖機能や性ホルモンの変化(更年期障害) 異常出血をきたす症状(弛緩出血、前置胎盤、常位胎盤早期剥離)	講義	
12	12. 女性生殖器の疾患と検査・治療	講義	
13	〔 不妊症、性感染症、膣炎、子宮内膜症、子宮筋腫、 絨毛性疾患、腫瘍 〕	講義	
14	13. 乳腺の疾患(乳がん、手術療法、放射線療法)	講義	
15	まとめ、修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 腎・泌尿器 医学書院 (第1～9回) 系統看護学講座 女性生殖器 医学書院 (第10～14回)		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	運動病態学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 運動器に関連した疾患の病態及び検査・治療を理解できる。 2. 末梢神経・中枢神経の疾患とそれに関する検査・治療について理解できる。 3. 感覚器の疾患とそれに関する検査・治療について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 運動器系の症状とその病態生理 疼痛のおこり方、形態の異常、関節運動の異常、神経障害	講義	
2・3	2. 診断・検査と治療・処置 画像検査・骨密度の測定、関節鏡検査、保存療法・手術療法	講義	
4	3. 骨折・捻挫および打撲、神経の損傷	講義	
5	4. 先天性疾患(骨形成不全症) 骨・関節の炎症性疾患(関節リウマチ等)	講義	
6	5. 代謝性骨疾患(くる病)、 筋および腱の疾患(進行性筋ジストロフィー)	講義	
7	6. 脊椎の疾患(腰椎椎間板ヘルニア等)	講義	
8	7. 脳神経系の症状とその病理、頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア	講義	
9	8. 検査・診断と治療・処置	講義	
10	9. 疾患の理解 脳血管障害、脳腫瘍	講義	
11	10. " 水頭症、パーキンソン病、髄膜炎	講義	
12	11. " てんかん・認知症	講義	
13	12. " 神経疾患(ALS)	講義	
14	13. 眼の診察と診断の流れ、結膜の疾患、水晶体の疾患	講義	
	14. 耳の診察と診断の流れ、内耳・後迷路性疾患	講義	
	15. 皮膚の障害、皮膚の病変と治療	講義	
15	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 運動器 医学書院 系統看護学講座 脳・神経疾患 医学書院 系統看護学講座 皮膚疾患 医学書院 系統看護学講座 眼科疾患 医学書院 系統看護学講座 耳鼻科疾患 医学書院 【参】系統看護学講座 解剖生理学 医学書院		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	消化病態学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 消化器疾患の主な症状・徴候の病態生理・検査および主たる病気の診断と治療について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 消化器疾患の症状とその病態生理(1) 嚥下困難、食欲不振・体重減少、おくび・胸やけ、 嘔吐・吐き気、腹痛	講義	
2	2. 消化器疾患の症状とその病態生理(2) 吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満、腹部腫瘤、腹水、黄疸、 門脈圧亢進、肝性脳症	講義	
3-4	3. 消化管の診察と診断の流れ 視診、聴診、触診、打診、直腸指診、糞便検査、胃液検査、 十二指腸液検査、肝機能検査、膵臓外分泌機能検査、 超音波検査、肝生検	講義	
5	4. 消化管に対する放射線検査と内視鏡検査 腹部単純X線撮影、消化管X線検査(消化管透視)	講義	
6	5. 手術手技の進歩、術前術後管理、消化管手術	講義	
7	6. 主な疾患の経過・診断過程と治療方法	講義	
8	1) 食道疾患(食道がん 等)	講義	
9	2) 胃・十二指腸疾患(胃がん、胃十二指腸潰瘍 等)	講義	
10-11	3) 腸・腹膜疾患 (直腸がん、ストーマ造設、虫垂炎、イレウス、大腸炎 等)	講義	
12	4) 肝臓・胆嚢疾患 (肝炎、肝硬変、食道静脈瘤、胆嚢炎、PTCD、TAE 等)	講義	
13	5) 膵臓疾患(膵臓がん、膵炎 等)	講義	
14	6) 急性腹症、その他(感染症 等)	講義	
15	7) 歯・口腔疾患(う歯、舌がん、歯周病、 等)	講義	
	15 修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 消化器 医学書院 系統看護学講座 歯・口腔 医学書院 【参】別巻 臨床外科看護総論 医学書院		
履修上の 注意			
備考	14回目の「歯・口腔疾患」のみ歯科医師が担当する。		

授業科目名	免疫代謝病態学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	2年次 1学期
科目目標	1. 生体防御に関わる器官の疾患の病態生理・症状・検査・治療について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	<内分泌疾患> 1. 下垂体の疾患	講義	
2	2. 下垂体・甲状腺の疾患	講義	
3	3. 副甲状腺、副腎の疾患	講義	
4	4. 性腺他の疾患	講義	
5	5. 糖尿病の疾患	講義	
6	6. 糖尿病・肥満の疾患	講義	
7	<血液疾患> 1. 赤血球系の疾患(貧血)	講義	
8	2. 出血性疾患の疾患(血小板)	講義	
9・10	3. 白血球系・リンパ系の疾患(白血病、リンパ腫、骨髄移植)	講義	
11	<アレルギー疾患> 1. アレルギー、膠原病の疾患	講義	
12	2. 膠原病	講義	
13	3. 感染症	講義	
14	4. まとめ	講義	
15	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 血液・造血器疾患 医学書院 系統看護学講座 内分泌・代謝疾患 医学書院 系統看護学講座 アレルギー疾患 医学書院		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	小児病態学		区分	専門基礎分野
			単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)		時期	2年次 1学期
科目目標	1. 小児医療の変遷および小児医療の現状について理解できる。 2. 小児各期において特徴ある主な疾患やその治療・検査について理解できる。			
回数	授業内容	教育方法		
1	1. 小児医療の現状 小児慢性期特定疾患	講義		
2	2. 新生児・低出生体重児の身体の特徴	講義		
3~6	3. 消化吸収・排泄機能の障害 (肥厚性幽門狭窄症 先天性胆道閉鎖症 ヒルシュスプルング症 周期性嘔吐症 フェニルケトン尿症 ネフローゼ症候群 など)	講義		
7	4. 先天異常(ターナー症候群 ダウン症 など)	講義		
8	5. 発達障害(広汎性発達障害 小児自閉症 など)	講義		
9	6. 感染症および免疫(流行性耳下腺炎 インフルエンザ)	講義		
10・11	7. アレルギー疾患(アトピー性皮膚炎 気管支喘息など)	講義		
12	7. 悪性新生物 (神経芽細胞腫 ウィルムス腫瘍 急性白血病 など)	講義		
13・14	8. その他の疾患 川崎病 乳幼児突然死症候群(SIDS) 熱性痙攣 など	講義		
15	修了試験	筆記試験		
評価方法	筆記試験等にて評価する。			
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院			
履修上の 注意				
備考				

授業科目名	精神病態学	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位 (15時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	2年次 1学期
授業のねらい概要	1. 精神疾患の症状・状態を理解できる。 2. 各精神疾患に対しての治療や検査を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1・2	1. 精神疾患の基礎知識 1) 精神疾患の概念 ICD-10 DSM-IV-TR 2) 治療のための診断: 多軸診断 2. 主な疾患 1) 症状性を含む器質性精神障害 (F0)	講義	
3・4	2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 (F1) 3) 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 (F2) 4) 気分障害 (F3) 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 (F4)	講義	
5・6	6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5) 7) 成人のパーソナリティおよび行動の障害 (F6)	講義	
7	8) 知的障害(精神遅滞) (F7) 9) 心理的発達の障害 (F8) 10) 小児(児童)期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 (F9)	講義	
8	3. 精神科における治療と検査 1) 臨床検査: 脳波 2) 心理検査: 知能検査 記銘力検査 人格検査 3) 精神疾患の治療法: (1) 薬物療法 (2) 電気けいれん療法 (3) 精神療法: 催眠療法 自立訓練法 バイオフィードバック 森田療法 内観療法 精神分析および力動的な精神療法	講義	
	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験等にて評価する		
必須図書 参考図書等	【必】 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 ヌーベルヒロカワ		
履修上の 注意			
備考			

平成31年度 授業概要

授業科目名	医療概論Ⅰ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師(医師)	時期	1年次 1学期
科目目標	1. 医療の歴史的発展、現状、将来を広く理解できる。 2. 医療に要求される倫理性と社会性を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 医学と医療のあゆみ 1) 古代の医学～現代までの発展 2) 今後の医学・医療の方向	講義	
2	2. 健康と疾病 1) 疾病と健康 2) 我が国における疾病構造の変化	講義	
3	3) 疾病の成り立ち－原因		
4	3. 健康と生活 1) 国民の健康に関する問題の背景(生活習慣)	講義	
5	2) 国民の健康づくり		
6	4. 医療の実践 1) 疾病の診断 2) 疾病の治療	講義	
7	3) 医療における医師－患者関係 4) 医師と他職種との関係		
8	5. わが国の医療体制の現状と整備 1) 医療サービスの推進	講義	
9	2) 医療保障の現状と課題(医療保障・医療保険制度)		
10	6. 医療の進歩と医の倫理 1) 倫理の歴史 2) 医療倫理	講義	
11	3) 生命倫理 4) 患者の権利		
12	5) 脳死 6) 死への対応	講義	
13・14	7. 政策医療	講義	
15	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】新体系 看護学全書 現代医療論 メヂカルフレンド社		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	医療概論Ⅱ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(医師・薬剤師・放射線技師・管理栄養士)	時期	1年次 2学期
科目目標	1. 診断と治療のプロセスを理解できる。 2. 治療方法の概要を学び、看護問題の理解に役立てることができる。		
回数	授業内容	教育方法	
1・2	1. 診断の過程 1) 症候の観察 病歴の聴取 2) 症候と疾病の関連 3) 観察法(視診 聴診 触診 精神機能の観察方法) 4) 検体検査と疾病の関連 尿検査(蛋白 糖 潜血 ケトン) 便(潜血) 分泌物 血液検査(血算 生化学 血清 凝固系 糖 ガス 電解質) 5) 生体検査と疾病の関連 心電図 超音波 画像診断 細胞診 組織診 内視鏡	講義	
3	2. 治療	講義	
4・5	1) 食事療法 2) 手術療法 術前の身体管理 麻酔 手術による身体侵襲と生体の反応 術後の管理 術後合併症	講義	
6	3) 運動療法	講義	
7	4) 放射線療法	講義	
8	修了試験		
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】新体系看護学全書 別巻13 治療法概説 メヂカルフレンド社 【必】系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院		
履修上の 注意			
備考			

平成31年度 授業概要

授業科目名	医療概論Ⅲ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(弁護士・医師・薬剤師)・専任教員	時期	2年次 2学期
科目目標	1. 法の下で、医療に従事するものの義務と社会システムについて理解できる。		
回数	授業内容	教育方法および担当	
1	1. 法と医療	講義	
2	2. 医療法	講義	
3	3. 保健に関する法規 4. 医師法	講義	
4	5. 感染予防に関する法規 6. 薬剤師法、医薬品医療機器法 薬剤師法、薬機法に定められた薬剤師の責任など	講義	
5	7. 障害者総合支援法について 障害者医療と生活支援(福祉)の関連について	講義	
6	8. 保健師助産師看護師法に関わること 資格免許について、医療の質の保証、 看護師の行う判断と医師の指示において必要な判断 欠格事由について	講義	
7	9. 保健師業務とは、助産師業務とは	講義	
8	10. 行政処分と免許証の取り扱いについて 修了試験	講義	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 看護関係法令 医学書院 【参】 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護六法 看護行政研究会 田村やよひ 私たちの拠りどころの保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会		
履修上の 注意			
備考			

授業科目名	環境衛生Ⅰ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(院外講師)・専任教員	時期	2年次 1学期
科目目標	1. 集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を考える上で必要な公衆衛生学的な考え方を習得できる。 2. 公衆衛生の動向を知り、組織的な保健活動について理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 公衆衛生の基礎(領域、活動の特徴、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション)	講義	
2	2. 公衆衛生のしくみ(政策展開、専門職の働き)	講義	
3	3. 環境と健康のつながり(地球環境問題、室内環境、食品環境環境基本法)	講義	
4	4. 疫学的方法による健康の理解(健康被害と母集団疫学的因果関係の推定、臨床疫学とエビデンス)	講義	
5	5. 健康指標(国勢調査、出生率、有病率・罹患率、死亡・死因平均寿命、平均余命、健康寿命)	講義	
6	6. 地域保健(地域保健法、健康日本21、健康増進法、市町村保健センター、保健所、予防)	講義	
7	7. 産業保健(労働基準法、労働安全衛生法、作業関連疾患、労働災害)	講義	
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 公衆衛生 医学書院 【参】 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
履修上の注意			
備考			

平成31年度 授業概要

授業科目名	環境衛生Ⅱ	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(15時間)
担当者	非常勤講師(保健師・養護教諭・管理栄養士)	時期	2年次 2学期
科目目標	1. 地域保健活動の中の保健師の役割、実際を理解できる。 2. 学校保健の中の養護教諭の役割、実際を理解できる。 3. 医療チームの中の栄養士の役割、実際を理解できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 地域保健活動の実際 母子保健、予防接種	講義	
2	2. 地域保健活動の実際 成人保健、高齢者保健	講義	
3	3. 地域保健活動の実際 難病対策、精神保健	講義	
4	4. 学校保健	講義	
5	5. 食の安全、病人の食事 施設(病院)における食の安全管理	講義	
6	6. NSTの考え方、活動と実際	講義	
7	7. 病院の食の現場見学 栄養部、指導室、調理室	講義・施設見学	
8	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】 系統看護学講座 公衆衛生 医学書院 【参】 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 系統看護学講座 栄養学 医学書院		
履修上の 注意			

平成31年度 授業概要

授業科目名	医療と福祉	区分	専門基礎分野
		単位数(時間数)	1単位(30時間)
担当者	非常勤講師	時期	2年次 2学期
科目目標	1. 看護活動に関連して生活者の健康を守るための社会保障制度の知識を習得できる。		
回数	授業内容	教育方法	
1	1. 社会保障制度と社会福祉 1) 社会保障の概念、目的、機能、体系、内容	講義	
2	2) 社会福祉の法制度	講義	
3	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義	
4	3. 社会福祉の歴史、社会保険の変遷	講義	
5	4. 医療保障制度 (国民皆保険、健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度)	講義	
6	5. 介護保障制度	講義	
7	1) 保険者・被保険者、要介護・要支援の認定、保険給付	講義	
8	2) 介護保険の財政、介護保険制度の課題と展望	講義	
9	6. 所得保障制度 (年金保険、社会手当、雇用保険、労働者災害補償保険)	講義	
10	7. 公的扶助 生活保護、貧困・低所得層をめぐる問題	講義	
11	8. 社会福祉分野とサービス	講義	
12	1) 高齢者福祉(老人福祉計画、生きがい対策)	講義	
13	2) 障害者福祉	講義	
14	3) 児童家庭福祉	講義	
15	9. 社会福祉実践と医療・看護	講義	
	1) 社会福祉援助と技術	講義	
	2) 連携、地域ケアシステム	講義	
	10. 生活と福祉	講義	
	修了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験にて評価する。		
必須図書 参考図書等	【必】系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院 【参】国民衛生の動向 厚生労働統計協会 系統看護学講座 看護関連法令 医学書院		
履修上の 注意			
備考			